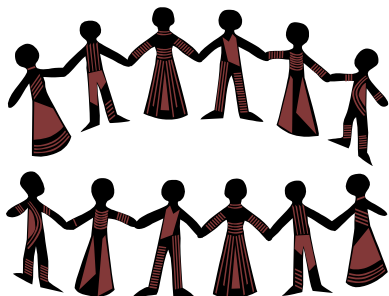
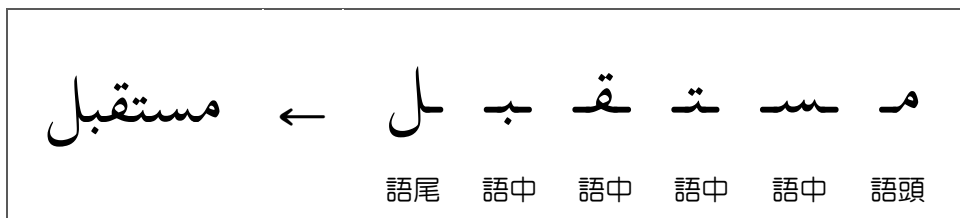


独立形と結合形

アラビア語は右から左に書きます。

アルファベットは28文字から成り、独立形と結合形があります。結合形には語頭形・語中形・語尾形の3種類があります。

単語は文字をつなげて書くので、1番目の文字は語頭形、中間の文字は語中形、最後の文字は語尾形を使います。これが基本です。




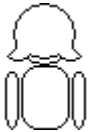


文字が手をつなぐ、と考えるとわかりやすいでしょう。語頭の文字は、左手を横に上げて次の文字と手をつなぎます。語中の文字は、両手を横に上げて前後の文字と手をつなぎます。語尾の文字は、右手を横に上げて前の文字と手をつなぎます。独立形は、両手を下げていて、他の文字と手をつながない状態といえます。

語尾形	語中形	語頭形	独立形

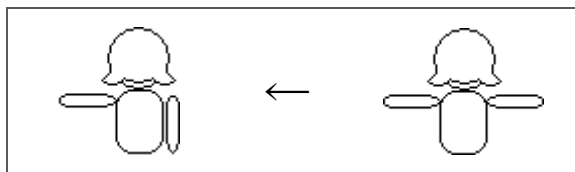
厄介なことに、次の文字と手をつながない意地悪な文字が6つあります。文字表(pp.1-3)の青い文字、(1) **ا**、(8) **د**、(9) **ذ**、(10) **ر**、(11) **ز**、(27) **و**です。

これらの文字は次の文字と手をつながないので、左手を上げません。その結果、語頭形は独立形、語中形は語尾形と同じになります。

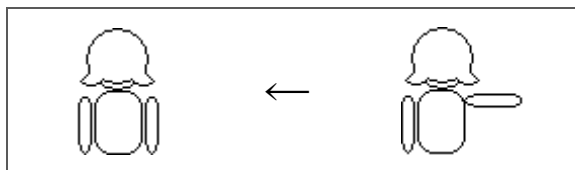
語尾形	語中形	語頭形	独立形
			

次の文字と手をつながない文字が使われると、その次にくる文字はどうなるでしょう。

語中の場合、本来なら両手を横に上げた語中形ですが、前の文字が手をつないでくれないので右手を下ろします。つまり語頭形になります。



語尾の場合、本来なら右手を横に上げた語尾形ですが、前の文字が手をつないでくれないので右手を下ろします。両手を下げた形は、独立形ですね。



どの形を使うのかわかりにくいときは、実際に手を上げ下げしてみるとよいでしょう。